

# JFM だより

vol. 27

## INDEX

- 01 融資の実
- 05 がんばる公営競技
- 07 地方支援ダイアリー
- 11 金融ひとくちメモ
- 13 人事交流日記&ふるさと紹介
- 14 編集後記
- 15 機構からのお知らせ
- 15 私たちもJFM債買ってます!

[JFMとは、**J**apan **F**inance Organization for **M**unicipalities の略称です。]

## Feature

# 長野県塩尻市 浄化センター



金融で地方財政を支え 地域の未来を拓く



地方公共団体金融機構  
Japan Finance Organization for Municipalities



融資の実：機構の融資が、どのように活かされているかをご紹介します。

## Feature 長野県塩尻市 塩尻市浄化センター

# 33年間にわたって供用を続ける下水道施設 市民の豊かで快適な生活を支える

昭和60年3月に供用開始した塩尻市浄化センターは、塩尻市の下水道事業の中核となる施設です。水道事業を取り巻く社会の変化とともに、長寿命化や耐震化などの対策を実施しながら、市民の豊かな生活を支えています。



塩尻市水道事業部  
イメージキャラクター  
分ちゃん・嶺ちゃん



▲ 建物外観

- 所在地：長野県塩尻市大字広丘吉田408-1
- 運転開始：昭和60年3月
- 敷地面積：2.87ha
- 処理能力：30,700m<sup>3</sup>/日



▲ 非常用自家発電機



▲ 送風機地下部分

施設は数多くのポンプや配管等の機器で構成されています。



▲ 建屋内通路



▲ 汚泥ポンプ施設

## 中長期的な視点から下水道事業の戦略を策定したのは、 全国の自治体の中でも比較的早い取り組みだと思えます

### 生活や産業に欠かせないインフラとして

塩尻市は、長野県の中央部に位置する人口約6万7,500人(平成29年度末)の都市です。産業は、都市近郊型の利を生かして、野菜や果樹などの農業が盛んです。また近年では、精密機械や電気機械などの工場が立地し、農業から工業中心の都市へと変貌しつつあります。

このような塩尻市の生活や産業に欠かすことのできないインフラが下水道です。塩尻市では、昭和46年度に下水道事業に着手し、昭和60年3月に塩尻市浄化センターの供用を開始しました。平成29年度末現在、人口の99.8%にあたる約6万7,300人が公共下水道(農業集落排水施設などを含む)を利用しています。

一方で、社会環境の変化とともに、下水道の維持管理においてもさまざまな問題がクローズアップされてい

ます。大地震や近年多発する局地的な大雨などの災害に備えた取り組みもそのひとつです。また、事業着手から約47年が経過し、老朽化に伴う更新投資の増大、人口減少による使用料収入の減少など、下水道事業の経営環境は厳しさを増しています。

「このような問題に対応しつつ、ライフラインとしての役割を着実に果たしていくために、塩尻市では平成28年に『塩尻市下水道ビジョン』を策定し、さらにこれをベースとして平成29年3月に『塩尻市下水道事業経営戦略』を策定しました。中長期的な視点から下水道事業の戦略を策定したのは、全国の自治体の中でも比較的早い取り組みだと思えます。現在、この下水道ビジョンに基づいて施設の長寿命化や耐震化の施策を進めています。」(塩尻市水道事業部下水道課・明間健一課長補佐兼下水道係長)



▲ 各種ポンプ施設

### 微生物の力を利用して汚水をきれいに

塩尻市浄化センターは、塩尻市の北部にあり、主に市街地の汚水処理を担う下水道事業の中核的な施設です。微生物の力によって汚れを分解する「標準活性汚泥法」という処理方式を採用しています。

下水道管を通して浄化センターまで運ばれてきた汚水は、まず沈砂池と呼ばれる池に溜められ、大きなゴミや砂などが除去されます。その後、ポンプの力によって沈殿池に送り、続いて反応タンクで処理を行います。このタンクの中にいる微生物が有機物を分解して水をきれいにします。そして別の沈殿池で水と汚泥に分けます。汚泥は機械によって濃縮・脱水します。脱水した汚泥はトラックで搬出し、セメント原料などに利用しています。処理能力は3万700m<sup>3</sup>/日であり、平成29年度は1日平



融資の実：機構の融資が、どのように活かされているかをご紹介します。



▲スクリーン かす搬出機



▲反応タンク上部



▲浄水直後の水(塩素等添加前)

反応タンクにいる微生物が  
汚れを食べて水をきれいにしています。  
反応タンク中の水1m<sup>3</sup>中には、  
200種類ほどの微生物が  
約10,000匹いると言われています。



▲汚泥脱水機内部

布と布の間に汚泥を入れ、  
それを挟んで水分を取り除きます。  
1日に発生する汚泥は15tにも及び、  
トラックで搬出し、  
セメント原料等にしています。



▲汚泥脱水機外観

均2万600m<sup>3</sup>の汚水を処理しました。

「臭いの発生を極力抑えるように工夫したり、周辺の環境には十分に配慮しています。なかでも放流する処理水の水質レベルにはこだわっています。法令によって定められた、基準となるBOD濃度が15mg/ℓであるのに対して、平成29年度は平均1.8mg/ℓという極めて良好な水質を維持し、健全な自然環境の保全・維持に貢献しています。」(塩尻市水道事業部下水道課・上野晃浄化センター係長兼所長)

塩尻市では、老朽化による維持管理費の増大を抑えるために、約490kmに及ぶ下水道管路や処理施設の長寿命化対策を平成25年度から実施しています。また、平成27年からは耐震化対策にも着手しました。塩尻市浄化センターでも、脱水機や自家発電機の更新、マンホールや水路の耐震化などを実施しています。これらの財源の一部に下水道事業債を活用しています。

### 中長期的な視点から下水道事業を見据える

平成28年に策定した塩尻市下水道ビジョンは、今後の下水道事業の道

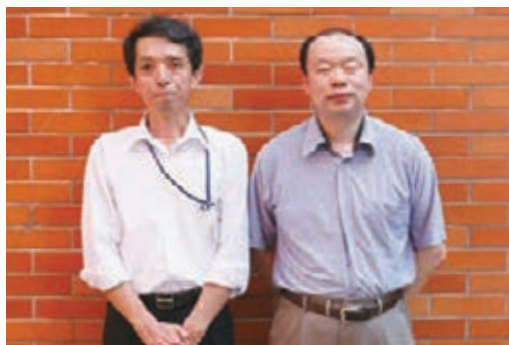
筋を示すものであり、「水と緑のまちづくりを支える下水道」の基本理念のもと、下水道の持続と進化を目指して6つの基本方針を掲げています。

ビジョンの策定にあたっては、今後50年にわたる事業費や管路施設健全度の推移などを視野に入れて検討を行いました。また、市民のニーズや社会情勢の変化などを取り入れながら、定期的に計画の見直しを図っていきます。

「ビジョンの策定では、学識経験者や市民の方々とも意見を交換しました。下水道は、今や普段の生活にとって当たり前の存在となりましたが、その『当たり前』を維持していくためには、地道な業務と将来を見越した計画が欠かせません。今後は、このような施策を改めて市民の皆さんに知ってもらえるように、広報活動などにも力を入れていきたいと考えています。」(明間課長補佐)

塩尻市浄化センターが稼働して今年で33年が経ちました。これからも社会の動きを取り入れながらその役割を果たし、市民の豊かな生活を支え続けていきます。

『当たり前』を維持していくためには、  
地道な業務と将来を見越した計画が欠かせません



▲ 塩尻市水道事業部下水道課・明間健一課長補佐兼下水道係長(左)  
塩尻市水道事業部下水道課・浄化センター・上野晃係長兼所長(右)



### ご当地紹介 長野県塩尻市

#### 歴史と文化が交差する宿場町

塩尻市は、日本のほぼ中央に位置し、太平洋側と日本海側の交通が交差する要衝として古くから栄えてきました。松本盆地の南端にあり、北アルプスや中央アルプスの山並みを背景に、清浄な水と緑に囲まれたのどかな田園風景が広がります。

奈良井宿をはじめとする中山道沿いの地域では、江戸時代に栄えた宿場町の面影が今も色濃く残されています。周辺の山々は、トレッキングやハイキングなどに最適で、市の東部に位置する高ボッチ高原では、遠くに富士山も望める360度の大パノラマが楽しめます。

特産品としては、ワインと漆器が有名です。塩尻市には個性豊かなワイナリーが集まっており、市内には醸造技術を学べるワイン大学があるなど、日本屈指のワインの名産地として高い評価を集めています。この地で醸すワインは各種の国際コンクールで優秀な成績を収めており、ヨーロッパのワイン界では「メルローのShiojiri」と絶賛されています。その他にも、そば切り発祥の地として知られる本山の蕎麦、郷土料理の山賊焼、ブドウやリンゴをはじめとする果物など、美味しい恵みが盛りだくさんです。



▲ うるしグラスとワイン



▲ 奈良井宿

#### 長野県塩尻市

人口:67,452人(平成30年8月1日現在)  
世帯数:27,543世帯(平成30年8月1日現在)  
面積:290.18km<sup>2</sup>



塩尻市